

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

岡山県産ブドウ、桃の2022年の輸出額がそれぞれ10億円、5000万円を初めて突破しました。記事を読み質問に答えましょう。

低学年も
チャレンジ!

Q1 ブドウ、桃の輸出額の数字を見て、どのように感じましたか。グラフや写真も参考に書きましょう。

Q2 岡山県は輸出に力を入れている重点市場を定めています。具体的にはどこかな。記事に出ている三つの国・地域を答えて。

Q3 岡山県は、新型コロナウイルスの影響で中断していた職員の海外派遣を昨秋から再開しました。対面でのプロモーションを行うのは何年ぶりですか。最後から2番目の段落を参考に答えましょう。

ブドウ10億円

卸売業者などへの聞き取りに基づく集計。県産農産物の輸出で主力のブドウは、前年比11・3%増の10億9844万円。桃は適度な降雨など天候に恵まれて豊作だったことから出荷量自体が伸び、前年から91・0%の大幅増となる55538万円だった。

輸出額は13年の集計開始以降、小増な増減を繰り返しながらブドウ、桃とも増加傾向にあったが、20年の新型コロナウイルス流行後は自宅で高級食材を楽しむ現地の

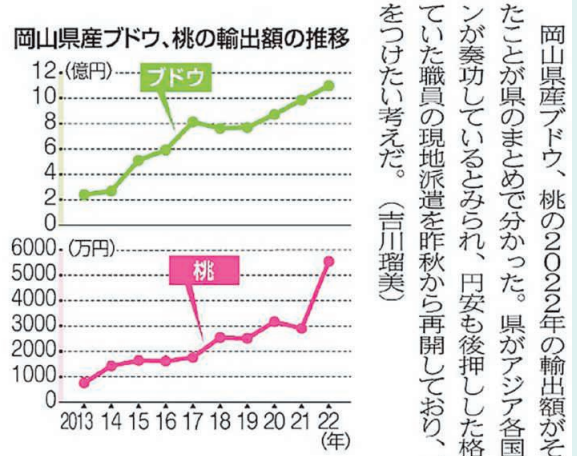
「単価も必要」を取り込みに加勢がさらに加速。円安で商品価格の割安感が強まったことも追い風となり、9年間でブドウは4・6倍、桃は7・3倍に増加した。

県はこれまで重点市場と位置付ける台湾、香港、シンガポールといったアジア圏の百貨店や高級スーパーでPRフェアを開いたり、職員が現地へ輸入業者との意見交換や市場調査を重ねたりと発信を強化してきた。

20年以降は新型コロナウイルスの

岡山産輸出初突破

桃5000万円



岡山県産ブドウ、桃の2022年の輸出額がそれぞれ10億円、5000万円を初めて突破したことが県のまとめで分かった。県がアジア各国・地域で継続的に展開するプロモーションが奏功しているとみられ、円安も後押しした格好。新型コロナウイルスの影響で中断していた職員の現地派遣を昨秋から再開しており、バイヤーとの関係を強化してさらに勢いをつけたい考えだ。(吉川瑠美)

22年 アジア認知活動、円安効果



香港の高級スーパーで開いた岡山県産ブドウのPRフェア
=2022年9月(県提供)

影響で職員派遣を見送っていたものの、リモートで現地関係者と連携を取りながらPRフェアは継続。県対外戦略推進室は「地道に関係をつないできたことが数字に表れているのだろう」とすえ、県産品のブランド力向上を強力で推進したい」としている。

22年11月に担当職員が香港、翌年1月には台湾に出向き、3年ぶりに対面でのプロモーションを再開したという。

23年度も重点市場を中心に売り込みを強める構えで、8月には伊原木隆太知事が台湾の百貨店でトップセールスを予定。同室は「インバウンド(訪日客)が集まる国内の首都圏での魅力発信にも注力しつつ、生産者の努力をしっかりと伝える努力をしっかりと伝

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。